

【プレスリリース】

報道関係各位

2023年1月10日

第28回日本腹膜透析医学会学術集会・総会にて優秀賞受賞  
**コロナ禍における、腹膜透析患者の退院後訪問  
オンライン活用での在宅における支援を実施**

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市鶴見区、以下、当院）は、2022年11月26日（土）、27日（日）に開催されました『第28回日本腹膜透析医学会学術集会・総会』にて、当院看護部の寺島明奈が発表した「腹膜透析患者に対する退院後訪問のオンライン化に向けた取り組み」にて優秀賞を受賞いたしましたので、お知らせいたします。

腎臓は、体内の水分やミネラルのバランスを保ち、体内で発生する老廃物を尿中に捨て、さらに、骨を健康に保つホルモンや、貧血を改善するホルモンを産生している大変重要な臓器です。このような腎臓の機能が低下すると、体の健康なバランスが保てなくなり、命の危険が及ぶこともあります。

これに対する根本的な治療は「腎移植」ですが、移植以外の治療手段として最も一般的に行われているのが「透析療法」です。

当院では、これまで退院後の患者さんに対して、外来・病棟・透析室の3部署の看護師で退院後訪問を実施してきました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により自宅訪問が困難な状況となったため、退院後訪問のオンライン化への取り組みを行いました。

- 入院中に初回面談を行い、退院後のオンライン訪問についての説明とオンラインに繋げる練習を実施
- 退院後自宅で腹膜透析を実施した翌日にオンライン訪問を行い、患者さんの不安を軽減
- スマートフォンやタブレット端末を用い、自宅での患者さんの様子や環境を確認・修正・指導
- 訪問患者さんの、腹膜透析を行う環境の整備や自宅での管理がスムーズにできるようになったことが確認できるまで訪問を継続、1名は1ヶ月間に5回訪問を実施、他の2人は3回訪問するなど一か月で計11回の訪問を実施

今回オンラインによる退院後訪問を通して、自宅環境の調整や手技の確認・修正は可能であることがわかりました。それにより、退院後の受診頻度を減らすことができ、患者さんの通院による負担軽減と、手技に対する不安を軽減することが期待でき、終息の兆しが見えないコロナ禍での直接訪問に代わる一つの手段として有用であることがわかりました。

当院は今後もオンライン訪問による支援を継続、コロナ対策だけでなくさまざまな事情を抱える腹膜透析患者さんに、直接訪問と合わせてご自身の生活に即した方法を選択いただき、安心して在宅生活を送ることができるよう支援を行います。

＜本件についてのお問い合わせ先＞

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当:波多野・荒木

電話:045-576-3000

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3丁目6番地1号

Email: koho@tobu.saiseikai.or.jp

### 【透析療法について】

糖尿病や高血圧といった生活習慣病、そして人口の高齢化が原因となって腎臓の機能が低下している方は着実に増加しており<sup>1</sup>、わが国の透析患者は年々増加しています。2020 年末の施設調査結果による透析患者数は 347,671 人に達し、国民の 400 人に 1 人、高齢者の 100 人に 1 人の割合となっています。透析療法患者さんのうち、腹膜透析患者数は、10,338 人と透析患者全体の 3%程度ではありますが、2017 年から増加傾向にあります<sup>2</sup>。

「透析療法」は、腎臓に代わって人工的に体の血液を浄化する働きを代行する方法です。透析療法には、血液透析と腹膜透析があり、血液透析は腕に造設した人工血管から血液を体の外に取り出し、透析器に循環させて尿毒素を除去したのちにきれいな血液を体内に戻す方法です。週 3 回決まった時間に病院に行き、1 回の治療に約 4 時間かかります。一方、腹膜透析は腹腔内に直接透析液を注入し、一定時間貯留している間に腹膜を介して血中の尿毒素、水分や塩分を透析液に移動させます。十分に移動した時点で透析液を体外に取り出すことにより血液浄化を行う方法です。自宅で行うことができ、通院は月に 1~2 回と少ないことがメリットとされています。しかし、通院頻度が少ないため生活の制限が少ない一方で、確実な自己管理が求められます。

### 【当日の様子】



### 【代表インタビュー】

当日、優秀賞に選ばれたときはとても驚きました。コロナ禍で直接会えない状況があり、何とか患者さんのフォローができないかと試行錯誤して行った取り組みが今回のオンライン訪問でした。取り組みを通して、オンライン訪問では限られた場所しか映したくない人や直接訪問でも家全体ではなく限られた場所にしか他者を入れたくない人もいることがわかり、そのような患者さんにはオンライン訪問は有用であると感じています。今後は直接訪問も再開されていく見込みですが、直接訪問とオンライン訪問を患者さんに選んでいただけるようにできると、患者さんの生活に応じた支援ができるのではないかと考えています

---

<sup>1</sup> 一般社団法人 日本透析医学会 透析療法について

<https://www.jsdt.or.jp/public/2123.html> 2022 年 12 月 5 日アクセス

<sup>2</sup> 花房 規男 わが国の慢性透析療法の現況 透析会誌 54 (12) : 611~657, 2021

<https://docs.jsdt.or.jp/overview/file/2020/pdf/2020all.pdf> 2022 年 12 月 5 日アクセス